

平成25年度 妙高市体育・保健体育部 活動報告

部長 丸山治夫

1 研究主題

仲間とかかわり合いながら、運動の楽しさや達成感を味わう体育授業の工夫

2 研究の概要

当市の小中学生の運動能力は、スポーツテストの結果によると小学6年男子で県平均より下回る種目が多く見られたが、それ以外は男女とも県平均と同等かそれ以上である。運動面の実態としては、日頃から運動に親しむ子とそうでない子の二極化が見られ、自らすすんで運動に親しむ子の育成が課題である。このことから、妙高市体育部では、「仲間とかかわり合いながら、運動の楽しさや達成感を味わわせる体育授業の工夫」をテーマとした研修に取り組んできた。

3 研究の実際

- (1) 日 時 平成25年11月7日(木)
- (2) 会 場 妙高市立妙高高原北小学校
- (3) 指導者 妙高市立妙高高原中学校
校長 流石光信 様
- (4) 授 業 第6学年「ハードル走」
- (5) 授業者 妙高高原北小学校 教諭 高橋健一
- (5) 参加者 妙高市学校教育研究会体育・保健体育部員 23名



4 成果と課題

(1) 授業公開

個人種目の「ハードル走」であるが、仲間と協力して練習したり、教え合ったりする場面を授業の中で意図的に設定した。技能異質チームでのトリオ学習や技術・練習補助シートの活用、ワークシートの工夫、ルールや場の設定、学習過程の工夫などが提案された授業であった。



(2) 研究協議

一つ目は「仲間とかかわり合う」という視点から、種目に応じたグループ編成の仕方や言語活動の取り入れ方について話し合われた。運動の特性に配慮しながら、効果的な場面で話し合いや教え合いが行われることが大切であるということを確認した。二つ目の視点は「運動の楽しさや達成感を味わう」である。自己記録の向上や技術的な上達が、楽しさや達成感につながる。そのために、授業の中で個に応じた適切なめあてを設定したり、練習の仕方を工夫したりすることが必要である。また、指導者が技術のポイントをしっかり押さえて指導することも大切であることを確認した。

(3) まとめ

子どもたちが主体的に仲間とかかわり合いながら活動をすすめるには、学習過程や運動の特性に応じた班編成の工夫が必要である。また、技術・練習補助シートの掲示やワークシートなどの活用も効果的である。体育授業の質の向上が、子どもたちの技能の向上につながる。その意味でも、指導と評価の一体化を常に考えながら、自己の授業を見直して授業改善を図るようにすることが大切。